



DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

決勝レポート 2009/5/17 Rd-2 鈴鹿

新生鈴鹿サーキットで開催される 第 3 世代フォーミュラニッポン。新生鈴鹿の初レースは、スタート直前に降り始めた雨により非常に困難なサバイバルレースとなった。

スタートの混乱をすり抜けた DOCOMO TEAM DANDELION RACING の両ドライバー、特に伊沢選手は 3 つポジションを上げ 8 位にジャンプアップ、前を走るライアン選手と共に 43 周後の表彰台を目指す。変化を繰り返す雨量、難しいコンディションにコースアウトやスピンで脱落するライバルを横に、一步一步着実に周回を重ねた。

27 周目、6 位を走行するライアン選手が先にピットイン、タイヤ交換と給油を済ませポジションキープでコースへ復帰した。伊沢選手は、ドコモ通信システムの優位性を利用し、走行中のタイヤの状態とガソリン消費量をチームと綿密に交信、タイヤ無交換の戦略を選択しガソリンのみ給油するため 33 周目にピットイン。僅か 10 秒のピットストップでコースインした。ところがこの直後からギアボックスの誤作動が頻発しペースが安定しない。

難しい状況ながらプッシュし続けた両ドライバーだったが、これ以上のポジションアップは叶わず、ライアン選手 6 位、伊沢選手 7 位でフィニッシュし、シーズンを戦う上で貴重は 5 ポイントを加算した。

40 : リチャードライアン 選手 6 位

とても困難なレースでした。勝つためにサーキットに来ているのですから、今回の結果は十分ではありませんが、難しい状況の中 チームは一切のミスもなく、戦略も良かったと思います。レースペースはよいので、やはり予選ポジションが課題ですね。

着実に速さを取り戻していると感じていますし、今回鈴鹿でのデータを解析して、次戦茂木ではトップ集団でのバトルをお見せします。

41: 伊沢拓也 選手 7 位

スタートは上手く決める事が出来、車の状況も良かった。タイヤの摩耗や燃費もうまくコントロールできたので、ピットインでは給油だけを行ってポジションアップを狙いましたが、ギアチェンジが上手く作動しない時があり、ラップタイムに安定感がありませんでした。予選も含め、困難は多かったのですが、少なくともポイントを加算できたのはシリーズを戦う上で良かったです。

次戦茂木は得意とするコースですので、最低でも表彰台、そしてチャンピオンシップポイントを大きく加算したいですね。